

記事

Report



おおいたジオ国際フォーラム分科会 I ジオパークセッションのねらいと概要

Synthesis: Objective of Geopark Session in the Geo-Oita International Forum

目代邦康^{1*}・新名阿津子²・柚洞一央^{3**}

MOKUDAI Kuniyasu^{1*}, NIINA Atsuko² and YUHORA Kazuhiro^{3**}

1: 公益財団法人自然保護助成基金 2: 公立鳥取環境大学 3: 室戸ジオパーク推進協議会

1: Pro Natura Foundation Japan 2: Tottori University of Environmental Studies 3: Muroto Geopark Promotion Committee

2015年10月20日投稿, 2015年10月21日受理

フォーラムの概要

2014年2月25日から28日にかけて、大分県別府市の別府国際コンベンションセンター (B-CON PLAZA) において、おおいたジオ国際フォーラムが開催された。テーマは、「大分の大地が育む地域多様性を考える～ジオパークに見る地域資源の保全と活用～」である。このフォーラムに先立つ2013年9月に、大分県では、おおいた姫島ジオパーク、おおいた豊後大野ジオパークの2地域が、日本ジオパークネットワーク加盟認定を受けた。それらが引き金となり、これらのジオパークを含む大分県で、地域の自然資源を保全し活用する方策について、より広く考えていくための国際フォーラムが企画された。

25日は、日本ジオパーク委員会委員長の尾池和夫博士、世界ジオパークネットワークビューローメンバーでありアジア太平洋ジオパークネットワーク会長でもあるイブラヒム・コモオ博士 (マレーシア) の基調講演とパネルディスカッションがあり、全体でジオパークに関する知識・情報を共有した上で、翌26日に3つの分科会とポスターセッションが行われた。分科会はジオパークに関する課題・調査研究発表からなる「ジオパーク」セッション、ジオパークで生まれた文化遺産についての取り組み等の発表からなる「文化遺産」セッション、ジオパークと地域の取り組みについての発表からなる「地域振興」セッション、教育現場でのジオパーク学習の活用事例報告からなる「教育」セッションというテーマ別セッションであった。

ジオパークセッションの内容

ジオパークセッションは、コンビナーを目代が、セッションリーダーを柚洞・新名が担当した。そこでは14件の発表があり、ジオパーク認定に向けて活動している

地域の報告や、各ジオパークにおける基礎的な研究の成果、ジオパーク活動の中で問題となっている事柄、そしてその解決に向けての活動などが報告された (表1)。

セッション終了後、フォーラム参加者が一堂に会し、セッションコンビナー、セッションリーダーから、各分科会での発表、討論された内容が報告され、今回のフォーラムで得られた知見について共有した。それらの報告をもとに全体で議論できれば良かったが、このフォーラムでは時間的な制約もありそれは難しかった。とはいえ今後、日本ジオパーク全国大会や様々な学会の場などで議論を続けていくことにより、本フォーラムの成果が活かされることになるだろう。なお、各コンビナーのまとめの報告は、おおいたジオ国際フォーラム事務局 (2014) に記録されているので、そちらも参考にされたい。

ジオパークの活動はそれぞれの場所での実践と、今回のようなフォーラム、シンポジウムでの知識、経験の共有と議論から生まれる新しい概念とが、相互に影響を及ぼし合いながら発展している。その議論のためには、その時々でジオパークで何が起きているのか、またその時にそこで活動している人々が何を考えているのか、口頭発表に終わらずそれらを記録に残していく必要がある。議論の場の創出とその記録、公開というサイクルが定着することで、日本のジオパーク活動が表面的なものでなく、深い考えに基づいたものとなるであろう。それを達成するためにも、このような論文として記録を蓄積していくことは必要不可欠である。

本特集は、ジオパークセッションでの発表のうちの4報告について、報告者が論文としてまとめたものである。各地のジオパークの現状について報告されたものであり、いずれも今後の議論の材料となるものである。熊谷 (2015) は、新聞記者という地域に密着して、その動向を長らく見続けてきた立場から、過去の山陰海岸ジオパークにおける考え方の変遷の過程について整理し、そ

表1 ジオパークセッションでの講演題目と発表者名
Table 1 Titles and presenting authors in Geopark session

日比野 剛	白山手取川ジオパーク推進協議会	白山手取川ジオパークとジオパーク内の整備
石川 徹	霧島ジオパーク推進連絡協議会	霧島火山群, 高千穂峰の山客がもたらした影響
チャクラバルディー アビック	伊豆半島ジオパーク推進協議会	ジオツーリズムの持続可能性とジオパークの順応的ガバナンスー伊豆半島ジオパークの事例を通して
大岩根 尚	鹿児島県三島村役場	三島村ジオパーク計画の現状とこれから
新名 阿津子	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター	ジオストーリーをめぐる地域の一般性と固有性
三浦 千翔	島原半島観光連盟	島原半島ジオパークにおける地域経済の持続的な発展を確保するための取組みと今後の課題
西谷 久一	おおいた姫島ジオパーク推進協議会	おおいた姫島ジオパークの取組みについて
堀川 義之	山口大学大学院理工学研究科・院生	かざん県おおいたの地質ー国東半島のジオサイトの紹介
畑中 健徳	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会事務局	ジオパークと個々の地域アイデンティティの関係について
柚洞 一央	室戸ジオパーク推進協議会	持続可能なジオパーク運営体制の構築ー室戸ジオパークでの取り組みー
松木 駿也	大阪市立大学文学部	室戸ジオパークにおけるジオストーリーのツーリズムでの活用
熊谷 暢聡	読売新聞大阪本社	ジオパークの多様化に向けてー山陰海岸ジオパークの経緯と事例を通じてー
藤井 利衣子	伊那市世界自然遺産登録推進室	地域住民への普及を目指して
小原 北士	美祢市世界ジオパーク推進課	山口県美祢地域のジオパーク構想について

の特徴を論じている。畑中 (2015) は、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの再認定審査結果が、条件付き再認定であったことから、地域で起こったこと、また担当者として考えたことを整理し報告している。松木・笹尾 (2015) は、室戸ジオパークにおいて、専門員や現地ガイドを対象とした聞き取り調査を行い、ジオストーリーの構築過程とその利用状況、そして地域の認識の変化を明らかにした。西谷ほか (2015) は、おおいた姫島ジオパークの大地の遺産 (geoh heritage) について解説し、それらを活用した地域でのジオパーク活動の実態を報告している。

いずれも現在の各地のジオパークの状況を調べて報告したものである。日々変化していくジオパーク活動の中で、このように記録が残され考察の対象となることの意味は大きい。ここから新たな議論が生まれることを期待したい。

文 献

- 畑中健徳 (2015) 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの2013年再認定審査における条件付き再認定とテーマの再設定について。ジオパークと地域資源, 1, 15-17.
- 熊谷暢聡 (2015) 山陰海岸ジオパークにおける活動の発展段階と課題。ジオパークと地域資源, 1, 7-14.
- 松木駿也・笹尾健二 (2015) 室戸ジオパークにおけるジオストーリーのツーリズムでの活用。ジオパークと地域資源, 1, 19-25.
- 西谷久一・恒賀健太郎・堀内 悠 (2015) おおいた姫島ジオパークにおける地域資源の活用と普及啓発の取り組み。ジオパークと地域資源, 1, 27-35.
- おおいたジオ国際フォーラム事務局 (2014) 「おおいたジオ国際フォーラム報告書」。75 p.